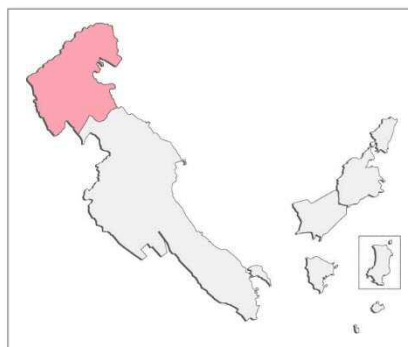


## II 地区別の振興方向の展開

### 1 石川地区



#### (1) 地区農業の現状と課題

石川地区は本市北部に位置し、金武湾に面する臨海都市です。沖縄自動車道の石川 I C が位置し、本島を縦横断する主要な道路が集中する交通の要衝であり、農産物の陸送など物流の要衝となっています。

本地区の主な農産物では、電照ギク、さとうきび、サヤインゲンやゴーヤー等の野菜、マンゴーやあま SUN 等の果樹、繁殖牛の栽培・飼育が盛んに行われています。

本地区の農業振興地域は 1,460.5ha であり、そのうち 676.0ha (46.3%) が農用地区域に指定されています。

本地区では農業農村整備事業の実施により、234.1ha で区画整理、144.2ha で畑地かんがい、133.2ha で農業用水源の整備が完了しています。

一方で、農道や排水路の再整備や農地末端における農業用水の確保のほか、農用地の耕作放棄地対策、農業者の高齢化対策と担い手の確保が課題となっています。

#### (2) 目指す方向

**多様な農産物を生産する優位性を生かし、  
生産体制と生産基盤の充実を目指します**

本地区は、野菜、果樹、花き、畜産と多様な農産物を生産できる農業の盛んな地区です。こうした地区の優位性を生かすためには、人的資源である農業者の確保・育成、環境資源である農地及び土地改良施設の確保・充実が必要になります。そのため、既存の農業資源を活用しつつ、多様な農産物の生産に向けて必要な生産体制と生産基盤の整備・充実を目指します。

また、石川 I C は陸路における本市の玄関口となります。そのため、市外、県外からの来訪者に対し、本地区の継続的な農産物の生産活動を通じて、本市の農業の魅力を発揮できる場づくりを目指します。

### (3) 主要施策の展開

#### 土地利用の方向性

- 多品目の農産物を作付・生産できる柔軟な土地利用を目指します。
- 地区内の耕作放棄地の解消と再生を推進します
- 中間管理機構の活用や法制度の周知で耕作放棄地の発生防止と農地流動化を促進します
- 耕作放棄地の解消目標を以下のとおり設定し、農地の有効活用を推進します

現在の石川地区の耕作放棄地面積	→	目標年度による耕作放棄地面積
15.0ha		11.0ha

#### 生産体制・基盤の方向性

- 担い手の確保・育成とともに、地区への定着に向けた取り組みを推進します
- 生産規模拡大や農家の高齢化に対応するため、農業機械の導入への支援及び、耕運作業等の農作業受委託事業を推進します
- 補助事業を活用した施設整備を推進します
- ファーマーズマーケットや拠点施設の活用による農産物の生産拡大を推進します
- 生産性の向上につながる生産基盤の整備を推進します
- 品目の多様化及び農産物の品質保持に向けた集出荷貯蔵施設の拡充を推進します
- 末端農地でも農業用水が利用できるかんがい施設の整備を推進します

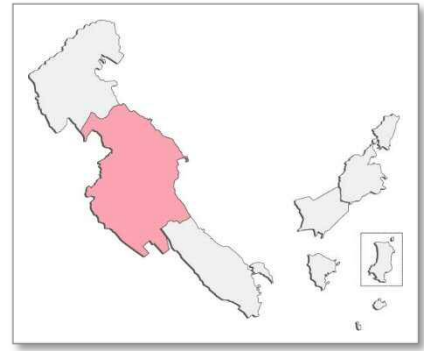
#### 品目・栽培の方向性

- 農家所得の向上につながる品目への転換及び裏作への指導に取り組みます
- 農産物の品質と農家所得の向上を目指した共同選別・共同販売を支援します
- 地域の文化・歴史が反映されたブランドづくりを推進します
- ヤマイモの生産から消費までのブランド化・特産品として定着化に取り組みます

#### 生活環境の方向性

- 衛生で快適な生産と生活が共生できる環境づくりを推進します
- 農業者と一般市民が集える農村コミュニティづくりを推進します
- 生産と生活が調和した環境づくりに向けて家畜糞尿の適正処理を推進します

## 2 具志川地区



### (1) 地区農業の現状と課題

本地区は市の南西部に位置しており、市街化区域の拡大による人口の増加や生活基盤の整備によって都市化が進展しています。そのため、市内の農村部においても農家と非農家の混住化がみられます。

本地区の主な農産物では、さとうきびを中心にグアバや花き、果樹、野菜等が栽培されるほか、照間地域でのい草の栽培や畜産経営が盛んに行われています。

本地区の農業振興地域は 1,796.0ha であり、そのうち 342.6ha (19.1%) が農用地区域に指定されています。

本地区では農業農村整備事業の実施により、109.7ha で区画整理、144.2ha で畑地かんがいの整備が完了しています。

一方で、農道や排水路の再整備や排水不良な農地の改善、かんがい未整備地区の解消等が望まれています。また、都市化が進展する本地区では、市街地近隣で営む畜産業に対して一般住民からの悪臭等の苦情への対応など周辺環境に配慮した営農が求められています。

### (2) 目指す方向

**人・情報が集まる地区の強みを生かした  
都市と共生できる生産環境づくりを目指します**

本地区は、都市近郊の農業として意欲の高い農業者によって耕種農業や畜産業が積極的に営まれています。都市化によって農地は減少していますが、人口の増加によって市内の一大消費地として地産地消が推進されるとともに、都市機能を生かした6次産業化への取り組み、消費者ニーズの把握、新たに整備される拠点施設を通じた本市農業の情報発信拠点となるなど、農家と非農家が連携して本市の農業振興を推進できる機能の発揮を目指します。

また、本地区に居住する住民を中心に農業への理解や親しみを提供・実感してもらうため、市民農園や食農教育といった農業体験や食育を实践できる場を創出するなど、都市と共生できる農業の生産環境づくりを目指します。

### (3) 主要施策の展開

#### 土地利用の方向性

- 耕種農業と畜産業が共存する土地利用を目指します
- 適正な土地利用の推進に向けた耕作放棄地の解消と農地集約化を促進します
- 中間管理機構の活用や法制度の周知で耕作放棄地の発生防止と農地流動化を促進します
- 担い手農家への農地集積に向けて関係機関による農地情報の共有と連携を強化します
- 耕作放棄地の解消目標を以下のとおり設定し、農地の有効活用を推進します

現在の具志川地区の耕作放棄地面積		目標年度による耕作放棄地面積
43.1ha	→	31.0ha

#### 生産体制・基盤の方向性

- 担い手の確保・育成とともに、地区への定着に向けた取り組みを推進します
- 生産規模拡大や農家の高齢化に対応するため、農業機械の導入への支援及び、耕運作業等の農作業受委託事業を推進します
- 補助事業を活用した施設整備を推進します
- 都市住民に配慮した畜産業の振興を推進します
- 豊原地区や前原地区、港原地区のかんがい施設の整備と適正な維持管理を推進します
- 品目の多様化及び農産物の品質保持に向けた集出荷貯蔵施設の拡充を推進します
- 農家所得の向上を目指して共同選果・共同販売体制を確立します
- ファーマーズマーケットや拠点施設の活用による農産物の生産拡大を推進します

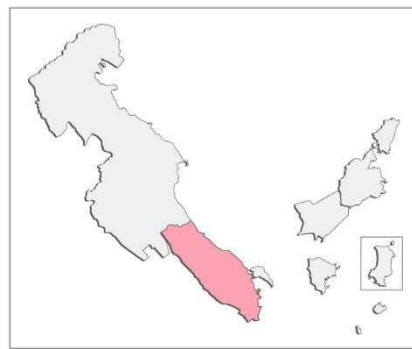
#### 品目・栽培の方向性

- 拠点産地品目以外の品目栽培の促進に向けた栽培誘導・技術指導を推進します
- 病虫害の防除・根絶に向けた講習会や技術講習会の開催を推進します
- 市場ニーズに応じた花き品目の栽培と栽培講習会の開催を推進します
- 高品質な花きの生産に向けて兼箇所地区の花き農家の集約化を推進します
- グァバ茶の消費の促進に向けて販路の拡大を目指します
- 大規模消費地の市街地（都市地域）で地産地消を推進できる農産物の栽培を支援します

#### 生活環境の方向性

- 農村地域の課題を改善できる集会の開催を推進します
- 都市住民と共生できる新たな畜産業への取り組みを支援します

## 3 与勝地区



### (1) 地区農業の現状と課題

本地区は本市の与勝半島に位置しています。半島部と藪地島、平安座島、浜比嘉島、宮城島、伊計島が海中道路や橋梁によって結ばれており、海中道路の海の駅「あやはし館」は観光の拠点であり、また、本市の象徴のひとつである国指定史跡「勝連城跡」があるなど、本地区には多くの観光客が来訪しています。

本地区の主な農産物では、さとうきびを中心に、オクラ等の野菜、マンゴー、グアバ等の果樹、小ギク等の花き、い草等が盛んに栽培されています。また、勝連地区には、農業を営みながらモズク漁の漁業にも取り組む兼業農家がみられたり、与勝朝市による地元農産物の直売による地産地消が推進されています。

本地区では 327.7ha が農用地区域に指定されています。また、本地区では、農業農村整備事業の実施により、134.2ha で区画整理、182.9ha で畑地かんがい、225.0ha で与勝地下ダム等の農業用水源の整備が完了しています。

一方で、地区内には狭小な農地が多くあることから、かんがい施設等の小規模な生産基盤の整備事業の導入とともに、こうした農地の有効活用が求められています。また、与勝地下ダムが整備されていますが、農業者全員が十分に利用できる環境にない状態にあり、設備や条件の見直し求められています。農業者の高齢化に対し担い手不足による農家数の減少がみられ、それに伴い耕作放棄地も増加しており、地区農業の構造的な改革が必要になっています。

### (2) 目指す方向

**自然、歴史・文化の地域資源を通じた農業と観光の連携と、生産量の増加につながる基盤づくりを目指します**

本地区は、海中道路や海の駅「あやはし館」をはじめ、勝連城跡や平安名貝塚、仲原遺跡など、歴史・文化、自然、レクリエーション等の多様な地域資源が分布しており、これらの資源を求めて多くの観光客が来訪しています。これら観光と農業の連携により、農業体験への取り組み、農家料理の提供、グリーンツーリズムの推進のほか、旅行会社とタイアップして観光ルートに農業とのふれあいを組み込むことで、観光を通じた農業の活性化を目指します。

また、生産環境の面では、生産性の向上とともに観光との連携において機能の発揮が見込める基盤整備を進めることで、適正な生産基盤づくりを目指します。観光と農業の連携という新たな儲かる農業への取り組みと生産性の高い生産環境を通じて、高齢農業者にとって労力軽減が見込めるとともに担い手の就農を期待できます。

さらに、観光との連携と合わせて新たな連携として、所得向上に向けて一次産業内における農業と漁業の連携を目指します。

### (3) 主要施策の展開

#### 土地利用の方向性

- 与勝地下ダム等の畑地かんがい事業を有効に活用できる土地利用を目指します
- 中間管理機構の活用や法制度の周知で耕作放棄地の発生防止と農地流動化を促進します
- 担い手農家への農地集積に向けて関係機関による農地情報の共有と連携を強化します
- 耕作放棄地の解消目標を以下のとおり設定し、農地の有効活用を推進します

現在の与勝地区の耕作放棄地面積	目標年度による耕作放棄地面積
38.6ha	27.0ha

#### 生産体制・基盤の方向性

- 担い手の確保・育成とともに、地区への定着に向けた取り組みを推進します
- 生産規模拡大や農家の高齢化に対応するため、農業機械の導入への支援及び、耕運作業等の農作業受委託事業を推進します
- 補助事業を活用した施設整備を推進します
- 照間地区を中心に排水不良地区の排水施設の整備及び用水改良の整備、施設の適正な維持管理を推進します
- 与勝地下ダムの利用を促進します
- 伊計島で農業用水の有効活用に向けて島内の貯水池の改修を推進します。
- 品目の多様化及び農産物の品質保持に向けた集出荷貯蔵施設の拡充を推進します
- 中城湾港や洲崎地区の関連企業と連携し、農産物情報の発信や農産物を活用した商品開発の拠点とすることを目指します
- 現在の与勝朝市を継続的に推進することで地産地消への取り組みを推進します。
- ファーマーズマーケットや拠点施設の活用による農産物の生産拡大を推進します
- 地域農産物を活用した加工品の開発・製造体制を確立します

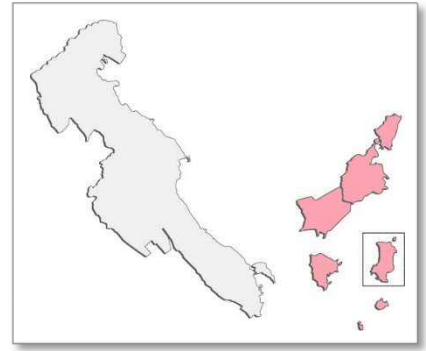
#### 品目・栽培の方向性

- 効率的な農業経営を実現する集落営農による組織化を推進します
- 年間を通じた所得を確保するため、裏作の指導・導入できる生産体制を確立します
- 地域の実情に合った高収益農産物の導入に向けた生産技術の指導を推進します

#### 生活環境の方向性

- 農業者と一般市民が集える農村コミュニティづくりを推進します
- 農業振興に向けて世代間や品目別の農業者による話し合いの場づくりを推進します

## 4 島しょ地区



### (1) 地区農業の現状と課題

本地区は津堅島、藪地島、平安座島、浜比嘉島、宮城島、伊計島で構成されています。このうち、津堅島以外は海中道路及び橋梁で陸続きで結ばれていますが、津堅島へは船での行き来となっています。

本地区の主な農産物では、津堅島でニンジンや甘しょ、津堅島以外でさとうきび、甘しょ、野菜、葉タバコが栽培されています。

本地区では 495.7ha が農用地区域に指定されています。また、本地区では、農業農村整備事業の実施により、349.8ha で区画整理、193.7ha で畑地かんがい、193.7ha で農業用水源の整備が完了しています。

一方で、農道や排水路の再整備や農地末端における農業用水の確保が求められています。また、農業者の高齢化に対し担い手不足による農家数の減少がみられ、今後、かんがい事業の完了に伴い農業用水の確保が期待できますが、事業完了までの間に離農されないような対策が求められています。津堅島では、病害虫の発生により、甘しょの島内への持ち込みが禁止されていて新たな農業展開が困難な状態にあり、病害虫の根絶は喫緊の課題です。

### (2) 目指す方向

**地区の弱点を強みに変えて、  
独自性豊かな農産物の生産体制づくりを目指します**

島しょ部では、農産物や肥料、資機材の輸送に長距離を要することから輸送にかかるコストが高騰します。また、津堅島で栽培するいもの病害虫の発生により、甘しょは島内へ持ち込むことができず、生産拡大による農家所得の向上を見込むことができません。こうした地区において、6次産業化への取り組みにより島しょ部の独自性のある農産物を使用した商品開発への取り組みや、島しょ部の豊かな資源を求めて来訪する観光客へ食として提供するなど、弱点を強みに生かした取り組みを目指します。

そのためには、高齢化が進行する農業者に対して担い手を計画的に確保・育成するとともに、生産環境の整備・充実により安定的な生産体制の確立を目指します。

また、勝連地区では与勝朝市が定期開催されており、地産地消を推進する拠点のひとつとなっています。PRを強化することで一般客の増加により、さらなる地産地消の推進につなげていきます。

### (3) 主要施策の展開

#### 土地利用の方向性

- 農地集積により、耕種農産物を中心とした集約型土地利用を目指します
- 中間管理機構の活用や法制度の周知で耕作放棄地の発生防止と農地流動化を促進します
- 担い手農家への農地集積に向けて関係機関による農地情報の共有と連携を強化します
- 耕作放棄地の解消目標を以下のとおり設定し、農地の有効活用を推進します

現在の島しょ地区の耕作放棄地面積		目標年度による耕作放棄地面積
13.3ha	→	9.0ha

#### 生産体制・基盤の方向性

- 担い手の確保・育成とともに、地区への定着に向けた取り組みを推進します
- 生産規模拡大や農家の高齢化に対応するため、農業機械の導入への支援及び、耕運作業等の農作業受委託事業を推進します
- 農業用水の利用促進に向けて取り組みます
- 高齢農業者が操作・利用できるかんがい施設の導入を推進します
- 生産コストの低減と高品質農産物の出荷に向けた共同選果・共同販売体制を確立します
- 品目の多様化及び農産物の品質保持に向けた集出荷貯蔵施設の拡充を推進します
- 輸送効率の向上と品質保持に向けて、港湾等への集出荷貯蔵施設の設置を目指します
- ゾウムシ根絶後に向けて津堅島若しくは本島に冷暗所の設置を目指します
- 補助事業を活用した施設整備を推進します
- 伊計島のかんがい施設の利用を促進します
- ファーマーズマーケットや拠点施設の活用による農産物の生産拡大を推進します
- 島からの出荷に向けて輸送費に対する補助の設立を推進します

#### 品目・栽培の方向性

- 年間を通じた所得を確保するため、裏作の指導・導入できる生産体制を確立します
- 農家所得の向上に向けた津堅エンジンの二期作や裏作を推進します
- 島内農業の生産コストの低減に向けた支援を推進します
- 農産物のブランド化を目指した農業者の意識醸成と生産体制を確立します
- 伊計島の黄金イモのブランド化を推進します

#### 生活環境の方向性

- 農業者と一般市民が集える農村コミュニティづくりを推進します
- 農業振興に向けて世代間や品目別の農業者による話し合いの場づくりを推進します